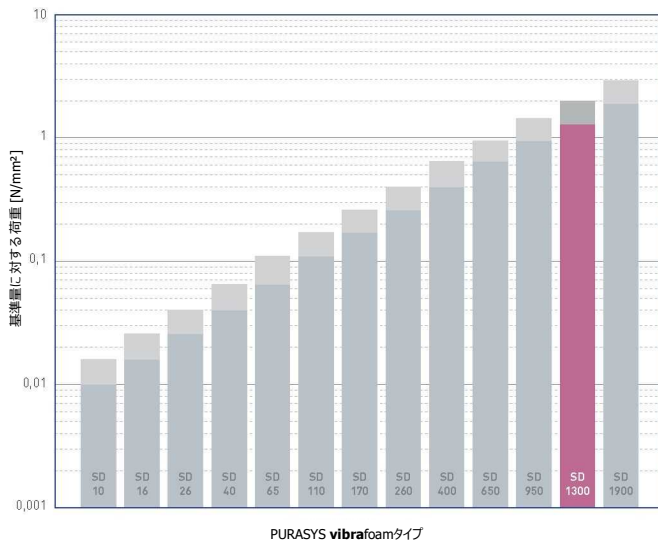


PURASYS vibrafoamシリーズ

使用範囲



弾性支承の推奨値：

静荷重の最大値 [N/mm²]

1.300

動荷重の最大値 [N/mm²]

2.000

荷重ピークの最大値 [N/mm²]

6.5

数値はフォームファクタに依存し、フォームファクタ q=3に適用。

材料 ポリエーテルウレタン混合発泡体

色 すみれ色

納入仕様

厚さ： 12.5 mmおよび25 mm

マット： 幅0.5 m、長さ2.0 m

ストライプ： 最大長さ 2.0 m

その他の寸法についてはリクエストに応じて対応（プレス加工部品および成形部品も含む）

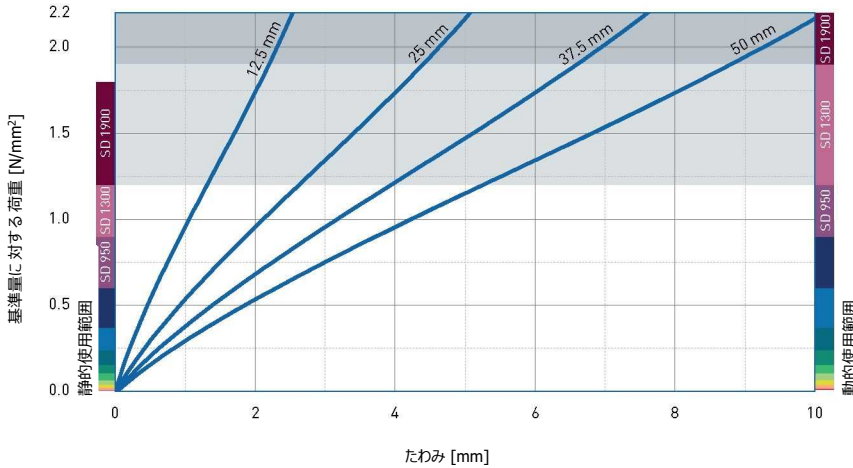
物性	値	試験方法	コメント
機械損失係数 ⁽¹⁾	0.09	DIN 53513 ⁽²⁾	参考値
静的ヤング率 ⁽¹⁾	12.0 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	
動的ヤング率 ⁽¹⁾	35.2 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	
静的せん断弾性係数 ⁽¹⁾	1.23 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	プレロード：1.30 N/mm ²
動的せん断弾性係数 ⁽¹⁾	3.51 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	プレロード：1.30 N/mm ² 、10 Hz
ひずみに対する抵抗力	1.340 N/mm ²		10%変形時
圧縮永久ひずみ	9%未満	DIN EN ISO 1856	50%、23°C、70時間、30分（除荷後）
引張強度	4.40 N/mm ² 超	DIN 53455-6-4	最小
破断点伸び	400%超	DIN 53455-6-4	最小
引裂抵抗	5.4 N/mm超	DIN ISO 34-1/A	
反発弾性	40%	DIN EN ISO 8307	±10%
比体積抵抗	10 ¹¹ Ω・cm超	DIN IEC 93	乾燥時
熱伝導率	0.11 W/[m・K]	DIN 52612-1	
使用温度	-30~+70°C		
温度ピーク値	+120°C		
引火性	クラスE/EN 13501-1	EN ISO 11925-1	通常の引火性

⁽¹⁾ 静的適用範囲の上限で測定

⁽²⁾ DIN 53513準拠の試験

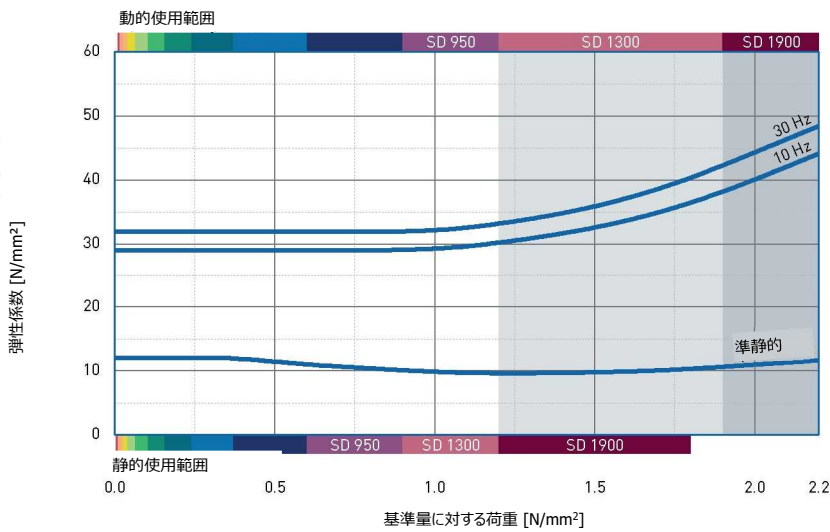
情報およびデータはすべて、当社の知見に基づいています。このデータは代表的な製造公差を対象としたものであり、保証対象外です。当社はデータを修正する権利を有します。

荷重たわみ曲線



載荷3回目の記録。毎秒たわみ率を厚さの1%として測定した室温において鋼板間で試験実施。
フォームファクタ $q=2$

弾性係数



動的試験：振動範囲が10 Hzで±0.22 mm、
30 Hzで±0.08 mmの正弦波加振

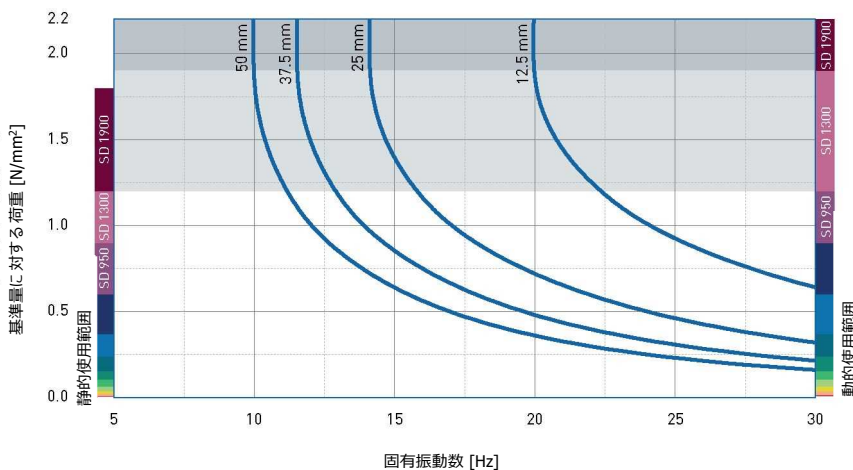
準静的弾性係数：

荷重たわみ曲線から得られた接線弾性係数

DIN 53513準拠の試験

フォームファクタ $q=2$

固有振動数

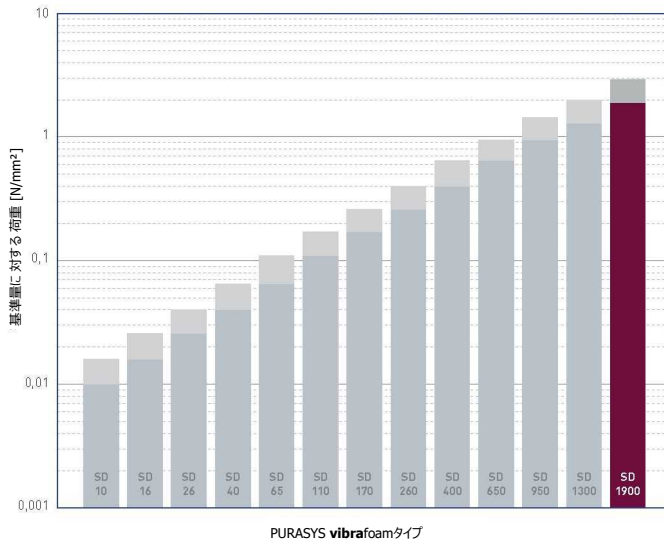


固い路盤上において固定質量とPURASYS
vibrafoamのSD1300による弾性支承とによって構成された一自由度系の固有振動数。

フォームファクタ $q=2$

PURASYS vibrafoamシリーズ

使用範囲



弾性支承の推奨値：

静荷重の最大値 [N/mm²]

1.900

動荷重の最大値 [N/mm²]

2.800

荷重ピークの最大値 [N/mm²]

7.0

数値はフォームファクタに依存し、フォームファクタ q=3に適用。

材料 ポリエーテルウレタン混合発泡体

色 ボルドー

納入仕様

厚さ： 12.5 mmおよび25 mm

マット： 幅0.5 m、長さ2.0 m

ストライプ： 最大長さ 2.0 m

その他の寸法についてはリクエストに応じて対応（プレス加工部品および成形部品も含む）

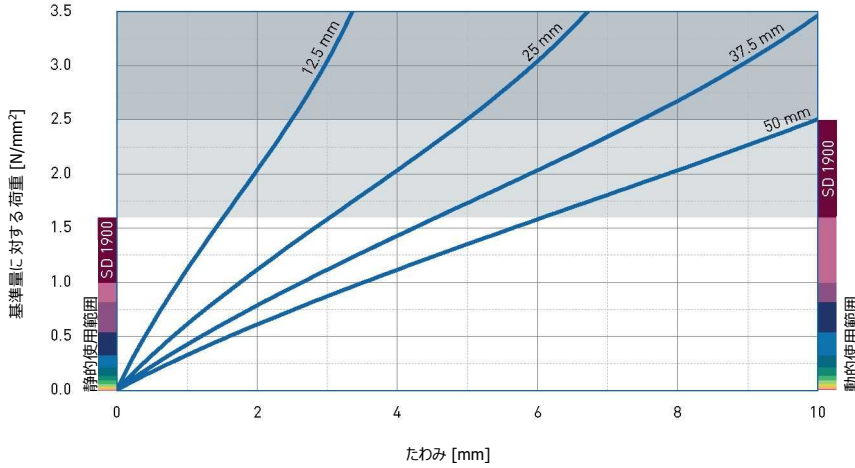
物性	値	試験方法	コメント
機械損失係数 ⁽¹⁾	0.09	DIN 53513 ⁽²⁾	参考値
静的ヤング率 ⁽¹⁾	20.4 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	
動的ヤング率 ⁽¹⁾	78.2 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	
静的せん断弾性係数 ⁽¹⁾	1.75 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	プレロード：1.90 N/mm ²
動的せん断弾性係数 ⁽¹⁾	6.00 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	プレロード：1.90 N/mm ² 、10 Hz
ひずみに対する抵抗力	1.840 N/mm ²		10%変形時
圧縮永久ひずみ	8%未満	DIN EN ISO 1856	50%、23°C、70時間、30分（除荷後）
引張強度	5.00 N/mm ² 超	DIN 53455-6-4	最小
破断点伸び	400%超	DIN 53455-6-4	最小
引裂抵抗	6.0 N/mm超	DIN ISO 34-1/A	
反発弾性	40%	DIN EN ISO 8307	±10%
比体積抵抗	10 ¹¹ Ω・cm超	DIN IEC 93	乾燥時
熱伝導率	0.11 W/[m・K]	DIN 52612-1	
使用温度	-30~+70°C		
温度ピーク値	+120°C		
引火性	クラスE/EN 13501-1	EN ISO 11925-1	通常の引火性

⁽¹⁾ 静的適用範囲の上限で測定

⁽²⁾ DIN 53513準拠の試験

情報およびデータはすべて、当社の知見に基づいています。このデータは代表的な製造公差を対象としたものであり、保証対象外です。当社はデータを修正する権利を有します。

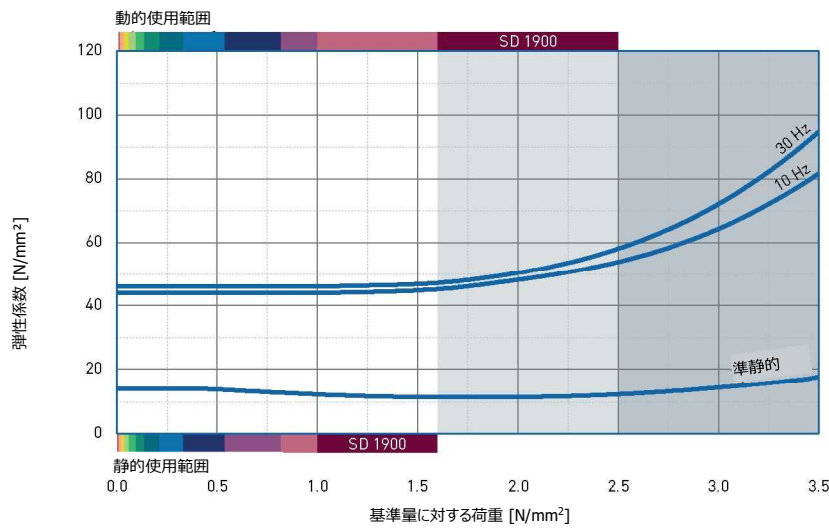
荷重たわみ曲線



載荷3回目の記録。毎秒たわみ率を厚さの1%として測定した室温において鋼板間で試験実施。

フォームファクタ $q = 1.25$

弾性係数



動的試験：振動範囲が10 Hzで±0.22 mm、30 Hzで±0.08 mmの正弦波加振

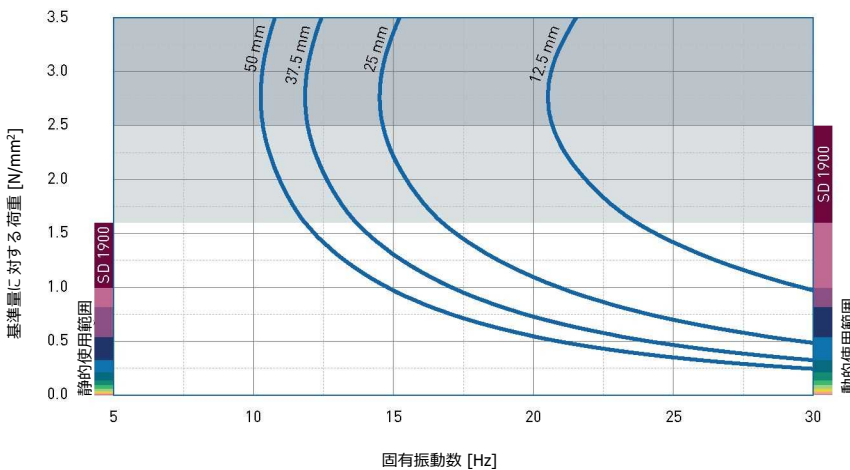
準静的弾性係数：

荷重たわみ曲線から得られた接線弾性係数

DIN 53513準拠の試験

フォームファクタ $q = 1.25$

固有振動数



固い路盤上において固定質量とPURASYS **vibrafoam**のSD1900による弾性支承とによって構成された一自由度系の固有振動数。

フォームファクタ $q = 1.25$

弾性支承の推奨値

静荷重の最大値 [N/mm²]

3.00

動荷重の最大値 [N/mm²]

4.50

荷重ピークの最大値 [N/mm²]

10.5

数値はフォームファクタに依存し、フォームファクタ q=3に適用。

材料 クローズドセルポリエーテルウレタン
色 青

納入仕様

厚さ： 12.5 mmおよび25 mm

マット： 幅0.5 m、長さ2.0 m

ストライプ： 最大長さ 2.0 m

その他の寸法についてはリクエストに応じて対応（プレス加工部品および成形部品も含む）

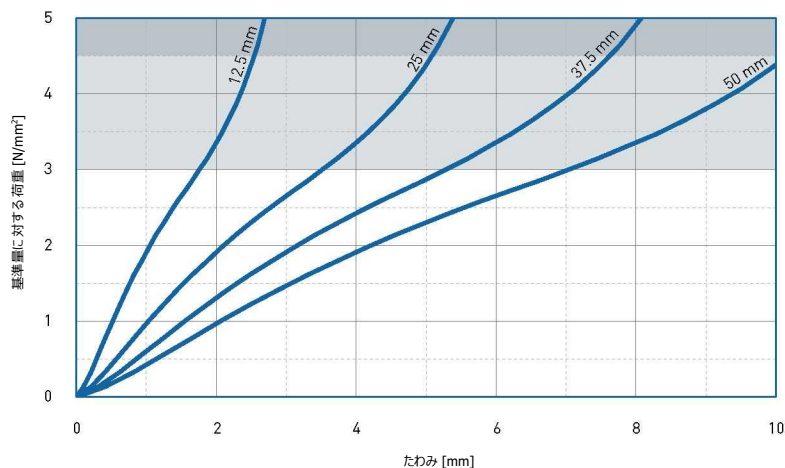
物性	値	試験方法	コメント
機械損失係数 ⁽¹⁾	0.09	DIN 53513 ⁽²⁾	参考値
静的ヤング率 ⁽¹⁾	17 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	
動的ヤング率 ⁽¹⁾	43 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	
静的せん断弾性係数 ⁽¹⁾	1.93 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	プレロード：3.0 N/mm ²
動的せん断弾性係数 ⁽¹⁾	4.0 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	プレロード：3.0 N/mm ² 、10 Hz
ひずみに対する抵抗力	2.3 N/mm ²		10%変形時
圧縮永久ひずみ	5%未満	DIN EN ISO 1856	50%、23°C、70時間、30分（除荷後）
使用温度	-30~+70°C		
温度ピーク値	+120°C		
引火性	クラスE/EN 13501-1	EN ISO 11925-1	通常の引火性

⁽¹⁾ 静的適用範囲の上限で測定

⁽²⁾ DIN 53513準拠の試験

情報およびデータはすべて、当社の知見に基づいています。このデータは代表的な製造公差を対象としたものであり、保証対象外です。当社はデータを修正する権利を有します。

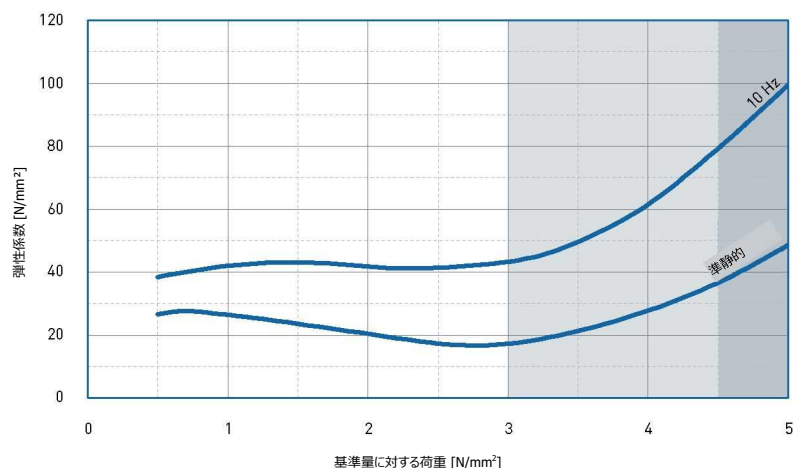
荷重たわみ曲線



載荷3回目の記録。v=0.2N/mm²/秒で測定した、室温で粒度K120のエメリークロスで処理した鋼板間で試験実施。

フォームファクタ q = 3

弾性係数



動的試験：振動範囲が、10 Hzで±0.11 mmの正弦波加振

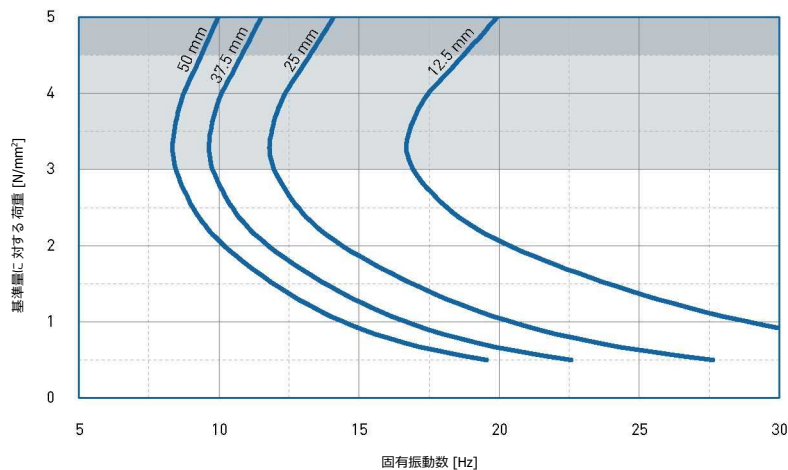
準静的弾性係数：

荷重たわみ曲線から得られた接線弾性係数

DIN 53513 準拠の試験

フォームファクタ q = 3

固有振動数



固い路盤上において固定質量とPURASYS

vibradynの HL3000による弾性支承とによって構成された一自由度系の固有振動数。

フォームファクタ q = 3

弾性支承の推奨値

静荷重の最大値 [N/mm²]

6.00

動荷重の最大値 [N/mm²]

9.00

荷重ピークの最大値 [N/mm²]

18.0

数値はフォームファクタに依存し、フォームファクタ q=3に適用。

材料 クローズドセルポリエーテルウレタン

色 濃い灰色

納入仕様

厚さ： 12.5 mmおよび25 mm

マット： 幅0.5 m、長さ2.0 m

ストライプ： 最大長さ 2.0 m

その他の寸法についてはリクエストに応じて対応（プレス加工部品および成形部品も含む）

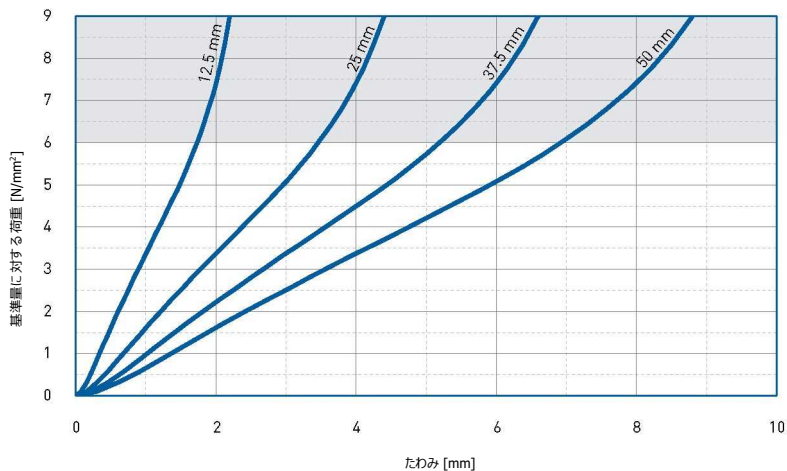
物性	値	試験方法	コメント
機械損失係数 ⁽¹⁾	0.11	DIN 53513 ⁽²⁾	参考値
静的ヤング率 ⁽¹⁾	55 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	
動的ヤング率 ⁽¹⁾	135 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	
静的せん断弾性係数 ⁽¹⁾	3.5 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	プレロード：6.0 N/mm ²
動的せん断弾性係数 ⁽¹⁾	6.0 N/mm ²	DIN 53513 ⁽²⁾	プレロード：6.0 N/mm ² 、10 Hz
ひずみに対する抵抗力	4.2 N/mm ²		10%変形時
圧縮永久ひずみ	5%未満	DIN EN ISO 1856	50%、23°C、70時間、30分（除荷後）
使用温度	-30~+70°C		
温度ピーク値	+120°C		
引火性	クラスE/EN 13501-1	EN ISO 11925-1	通常の引火性

⁽¹⁾ 静的適用範囲の上限で測定

⁽²⁾ DIN 53513準拠の試験

情報およびデータはすべて、当社の知見に基づいています。このデータは代表的な製造公差を対象としたものであり、保証対象外です。当社はデータを修正する権利を有します。

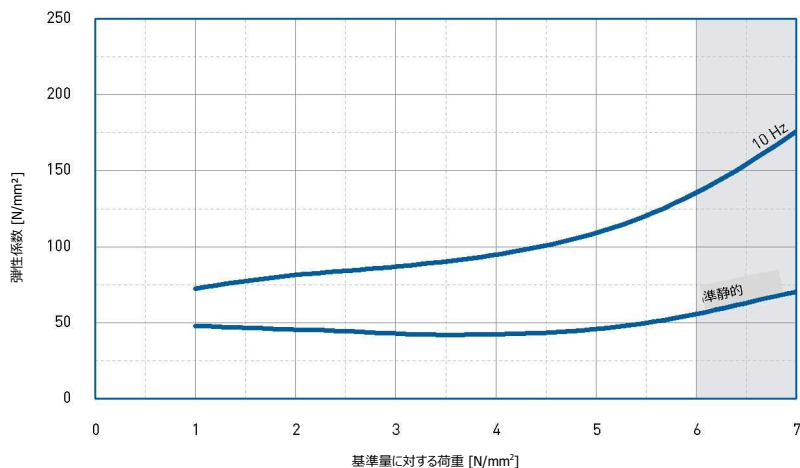
荷重たわみ曲線



載荷3回目の記録。v=0.4N/mm²/秒で測定した、室温で粒度K120のエメリークロスで処理した鋼板間で試験実施。

フォームファクタ q=3

弾性係数



動的試験：振動範囲が、10 Hzで±0.11 mmの正弦波加振

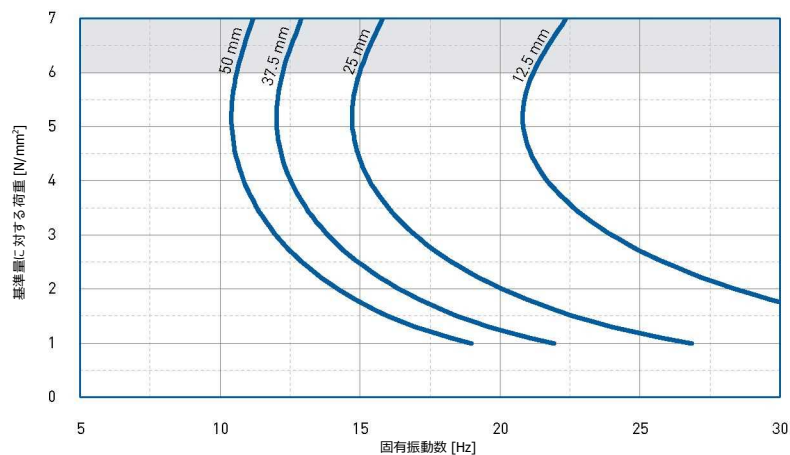
準静的弾性係数：

荷重たわみ曲線から得られた接線弾性係数

DIN 53513準拠の試験

フォームファクタ q=3

固有振動数



固い路盤上において固定質量とPURASYS **vibradyn**のHL6000による弾性支承とによって構成された一自由度系の固有振動数。

フォームファクタ q=3

免責事項：

本書に記載している情報は、関心事項の要約および概要としてのみ使用するためのものです。包括的なものではなく、専門家の助言で構成されたものではありません。KRAIBURG PuraSysは、直接的または間接的に生じた偶発的および/または結果的な損害、あるいは業界/製品の関連規格の不遵守およびPURASYS vibrafoam製品の不適切な使用によって生じた損失に対して責任を負わないものとします。さまざまな工法があるため、上記に示されていないその他の状況については、KRAIBURG PuraSysに知らせて評価を受けるようにしてください。一般的なサイト条件に適合させるため、認定済みの試験を実施するようにしてください。使用前に、当社の技術スタッフからアプリケーションに関する詳細な助言を聞くことをお勧めします。

本データシートはあらゆる変更業務の対象外です！すべての情報が保証対象外となります。本書の最新版は、下記で入手可能です。
www.kraiburg-purasys.com